

明 細 書

発明の名称： 研磨パッド

技術分野

[0001] 本発明は、研磨パッド、詳しくは、半導体ウエハ、半導体デバイス、シリコンウエハ、ハードディスク、ガラス基板、光学製品、または、各種金属等を研磨するための研磨パッドに関する。

背景技術

[0002] 集積回路を形成するための基板として使用される半導体ウエハの鏡面加工や、半導体デバイスの絶縁膜や導電体膜の凹凸を平坦化加工するために用いられる研磨方法として、化学機械研磨（Chemical Mechanical Polishing、以下「CMP」ともいう）が知られている。CMPは、半導体ウエハ等の被研磨基板の表面を、砥粒及び反応液を含む研磨スラリー（以下、単にスラリーとも称する）を用いて研磨パッドで研磨する方法である。

[0003] CMPでは、研磨パッドの研磨層の性状や特性により研磨結果が大きく変化する。例えば、柔らかい研磨層は、被研磨面に発生する研磨欠陥であるスクラッチを低減させる一方、被研磨面に対する局所的な平坦化性や研磨速度を低下させる。また、硬い研磨層は、被研磨面に対する平坦化性を向上させる一方、被研磨面に発生するスクラッチを増加させる。

[0004] また、CMPでは、研磨層の研磨面の表面粗さによっても研磨結果が大きく変化する。研磨面の表面粗さを制御してスラリーの保持性を向上させることにより、研磨速度や被研磨面に対する平坦化性を改良することができる。また、表面粗さを均一にすることにより、研磨均一性を制御することができる。さらに、研磨面のドレス性を向上させることにより、研磨の準備として、最適な表面粗さにするためのドレッシングの時間を短くしてプロセスタイムを短縮化したり、研磨パッドの寿命を延ばしたりすることもできる。

[0005] このような各種特性を備える研磨層の素材として、ポリウレタンが用いられている。そして、ポリウレタンに対する種々の改良が提案されている。

- [0006] 例えば、下記特許文献1は、共役ジエン共重合体等の高分子マトリクス材に、ポリオキシエチレン等の主鎖にエーテル結合を含む重合体及びシクロデキストリン等の水溶性粒子を、分散させてなる研磨層を備える研磨パッドを開示する。そして、特許文献1は、このような研磨パッドが、高い研磨速度を与え、また、被研磨面におけるスクラッチの発生を十分に抑制し、さらに、研磨量について被研磨面内均一性を高度に実現できることを開示する。
- [0007] また、下記特許文献2は、熱可塑性ポリウレタンを80質量部以上99質量部以下と、ポリオキシエチレン等の吸水率3%以上300%以下の高分子化合物を1質量部以上20質量部以下と、を含有する組成物から形成された研磨層を有する化学機械研磨パッドを開示する。特許文献2は、このような研磨パッドが、スラリーと接触した水溶性粒子が遊離することにより空孔を形成させ、形成された空孔にスラリーを保持させて、高い平坦化性を維持し、スクラッチの発生も低減させることを開示する。
- [0008] また、下記特許文献3は、樹脂及び炭酸カルシウムの粒子等の第一の粒子を含む研磨層を有する研磨パッドであって、第一の粒子の平均粒子径 D_{50} が1.0～5.0 μm 未満であり、研磨層全体に対する第一の粒子の含有量が6.0～18.0体積%であり、第一の粒子のモース硬度が、被研磨基板のモース硬度未満である研磨パッドを開示する。特許文献3は、このような研磨パッドにおいては、樹脂と第一の粒子との界面が脆くなることにより、優れたドレス性が得られることを開示する。

先行技術文献

特許文献

- [0009] 特許文献1：国際公開第2007/089004号
特許文献2：特開2011-151373号公報
特許文献3：特開2019-155507号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0010] 特許文献1及び特許文献2に開示された研磨パッドによれば、高い研磨速度と、高い平坦化性と、スクラッチが発生しにくい低スクラッチ性と、優れたドレス性と、を兼ね備えることが難しかった。また、特許文献3に開示された研磨パッドによれば、第一の粒子の粒子径が比較的大きいために、スクラッチが発生しやすくなる懸念があった。このように、ポリウレタンを含む研磨層においては、高い研磨速度と、高い平坦化性と、低スクラッチ性と、優れたドレス性と、を兼ね備えることが難しかった。

[0011] 本発明は、高い研磨速度と、高い平坦化性と、低スクラッチ性と、優れたドレス性と、を兼ね備えた、研磨パッドを提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0012] 本発明の一局面は、ポリウレタン組成物の成形体である研磨層を含む研磨パッドであって、ポリウレタン組成物は、有機ジイソシアネート単位として非脂環式ジイソシアネート単位を含む熱可塑性ポリウレタン90～99.9質量%と、吸湿率0.1%以上の吸湿性高分子0.1～10質量%と、を含有する。そして、成形体が、JIS K 7215準拠のタイプDデュロメータで荷重保持時間5秒間の条件で測定された、75～90のD硬度を有する、研磨パッドである。このような研磨パッドによれば、高い研磨速度と、高い平坦化性と、低スクラッチ性と、優れたドレス性と、を兼ね備えた、研磨パッドが得られる。

[0013] 熱可塑性ポリウレタンは、有機ジイソシアネート単位の総量中に、非脂環式ジイソシアネート単位である4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート単位を90～100モル%含むことが好ましい。このような場合には、吸湿性高分子が熱可塑性ポリウレタンにとくに相溶性よく分散しやすくなる。

[0014] また、ポリウレタン組成物は、熱可塑性ポリウレタン99～99.9質量%と、吸湿性高分子0.1～1質量%と、を含有することが好ましい。このような場合には、研磨層が、D硬度をより高く維持しやすくなり、より高い平坦化性を保持しやすくなる。

[0015] また、吸湿性高分子としては、例えば、ポリエチレンオキサイドやポリエ

チレンオキサイドープロピレンオキサイドブロック共重合体が挙げられる。

[0016] また、成形体は、50℃の水で飽和膨潤させたときの、飽和膨潤時破断伸度が50～250%であることが好ましい。このような場合には、研磨層が、高い平坦化性を維持しながら、その研磨面がより荒れやすくなってドレス性に優れやすくなる。

[0017] また、成形体は、湿度48RH%、23℃における、乾燥時破断伸度が0.1～10%であることが好ましい。このような場合には、研磨層が、より高い平坦化性を保持しやすくなる。

[0018] また、成形体は、上記飽和膨潤時破断伸度 S_1 と上記乾燥時破断伸度 S_2 との比 S_1/S_2 が20～50であることが好ましい。このような場合には、ドレス性及び平坦化性にとくに優れた研磨層が得られやすくなる。

[0019] また、成形体は、厚さ0.5mmのシートを50℃の水で飽和膨潤させたときの、波長550nmのレーザー光透過率が60%以上であることが好ましい。このような場合には、低スクラッチ性に優れ、また、ウエハ等の被研磨基板の被研磨面を研磨しながら研磨終点を決定するような光学的に検知する手段を用いた検査が採用しやすい、研磨層が得られやすくなる。

[0020] また、成形体は、ビッカース硬さが21以上であることが好ましい。このような場合には、平坦化性にとくに優れた研磨層が得られやすい。

[0021] また、成形体は、50℃の水で飽和膨潤させたときの貯蔵弾性率が0.1～1.0GPaであることが好ましい。このような場合には、より高い平坦化性を保持しやすい研磨層が得られやすくなる。

[0022] また、成形体が無発泡成形体であることが好ましい。このような場合には、研磨層の硬度がより高くなりやすくなることにより、より高い平坦化性や高い研磨速度を実現しやすくなる。また、スラリー中の砥粒が空孔内に侵入して形成される砥粒の凝集体が発生しにくくなるために、ウエハ表面を凝集体が引掻いて発生するスクラッチが、発生しにくくなる。

発明の効果

[0023] 本発明によれば、高い研磨速度と、高い平坦化性と、低スクラッチ性と、

優れたドレス性と、を兼ね備えた、研磨パッドが得られる。

図面の簡単な説明

[0024] [図1]図1は、実施形態の研磨パッド10を用いたCMPを説明するための説明図である。

発明を実施するための形態

[0025] 以下、研磨パッドの一実施形態について、詳しく説明する。

[0026] 本実施形態の研磨パッドは、ポリウレタン組成物の成形体である研磨層を含む。ポリウレタン組成物は、有機ジイソシアネート単位として非脂環式ジイソシアネート単位を含む熱可塑性ポリウレタン（以下、非脂環式熱可塑性ポリウレタンとも称する）90～99.9質量%と、吸湿性高分子0.1～10質量%とを含有する。そして、成形体は、JIS K 7215準拠のタイプDデュロメータで荷重保持時間を5秒間の条件で測定された、75～90のD硬度を有する。

[0027] 非脂環式熱可塑性ポリウレタンは、有機ジイソシアネート、高分子ジオール及び鎖伸長剤を含むポリウレタン原料を反応させて得られる熱可塑性ポリウレタンである。そして、非脂環式熱可塑性ポリウレタンは、非脂環式ジイソシアネートを含む有機ジイソシアネートを用いて得られる、熱可塑性ポリウレタンである。非脂環式熱可塑性ポリウレタンの有機ジイソシアネート単位の総量中に含まれる、非脂環式ジイソシアネート単位の含有割合としては、60～100モル%、さらには90～100モル%、とくには95～100モル%、ことには99～100モル%であることが好ましい。非脂環式ジイソシアネート単位の含有割合が低すぎる場合には、非脂環式熱可塑性ポリウレタンと吸湿性高分子との相溶性が低くなる傾向がある。

[0028] 研磨パッドの研磨層として、このようなポリウレタン組成物の成形体を用いることにより、高い研磨速度と、高い平坦化性と、低スクラッチ性と、優れたドレス性と、を兼ね備える研磨層を備えた、研磨パッドが得られる。

[0029] このようなポリウレタン組成物の成形体においては、非脂環式熱可塑性ポリウレタンと吸湿性高分子との相溶性が高くなることにより、成形体中の吸

湿性高分子の分散性が高くなる。詳しくは、非脂環式熱可塑性ポリウレタン
の高分子ジオールに由来するソフトセグメントと吸湿性高分子とが相溶しや
すくなる。そして、成形体である研磨層がスラリーを含水したときに研磨層
の延伸性が適度に高くなる。それにより、研磨面の表面粗さを最適化するた
めのドレッシングを短時間で完了することができる。

[0030] 一方、非脂環式熱可塑性ポリウレタンに含まれる、鎖伸長剤に由来する結
晶性のハードセグメントと吸湿性高分子とは、相溶性が低い。そのために結
晶性の硬いハードセグメントは、維持されやすくなる。その結果、非脂環式
熱可塑性ポリウレタンの硬度は低下しにくくなる。すなわち、吸湿性高分子
はソフトセグメントに対して相溶性が高く、ハードセグメントに対して相溶
性が低い。

[0031] その結果、吸湿性高分子を含有して含水したときに延伸性が高くなり、且
つ、高硬度を維持できる、熱可塑性ポリウレタンを含む成形体である研磨層
が得られる。このような研磨層は、D硬度75～90の高硬度により、高い
研磨速度と高い平坦化性とを保持するとともに、ソフトセグメントに偏在し
やすい吸湿性高分子の、延伸性向上効果による高いドレス性と、その親水性
による低スクラッチ性とを保持することができる。

[0032] 非脂環式熱可塑性ポリウレタンの製造に用いられる非脂環式ジイソシアネ
ートとは、脂環式ジイソシアネート以外のジイソシアネートであり、具体的
には、脂肪族環式構造を有しない、芳香族ジイソシアネートまたは直鎖脂肪
族ジイソシアネートである。

[0033] 芳香族ジイソシアネートは、分子構造内に芳香環を含有するジイソシアネ
ート化合物である。その具体例としては、例えば、2,4'-ジフェニルメタン
ジイソシアネート、4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート、2,4-トリレ
ンジイソシアネート、2,6-トリレンジイソシアネート、m-フェニレンジイソ
シアネート、p-フェニレンジイソシアネート、m-キシリレンジイソシアネー
ト、p-キシリレンジイソシアネート、1,5-ナフチレンジイソシアネート、4,
4'-ジイソシアナトビフェニル、3,3'-ジメチル-4,4'-ジイソシアナトビフ

エニル, 3,3'-ジメチル-4,4'-ジイソシアナトジフェニルメタン, クロロフェニレン-2,4-ジイソシアネート、テトラメチルキシリレンジイソシアネート、等が挙げられる。

[0034] また、直鎖脂肪族ジイソシアネートは、分子構造内に環構造を有しない直鎖脂肪族の骨格を有するジイソシアネート化合物である。その具体例としては、例えば、エチレンジイソシアネート、テトラメチレンジイソシアネート、ペンタメチレンジイソシアネート、ヘキサメチレンジイソシアネート、2,2,4-トリメチルヘキサメチレンジイソシアネート、2,4,4-トリメチルヘキサメチレンジイソシアネート、ドデカメチレンジイソシアネート、イソホロンジイソシアネート、リジンジイソシアネート、2,6-ジイソシアナトメチルカプロエート、ビス(2-イソシアナトエチル)フマレート、ビス(2-イソシアナトエチル)カーボネート、2-イソシアナトエチル-2,6-ジイソシアナトヘキサノエート、等が挙げられる。

[0035] 非脂環式熱可塑性ポリウレタンは、原料として用いられる有機ジイソシアネートとして、例えば、60モル%以上、好ましくは90モル%以上、さらに好ましくは95モル%以上、特に好ましくは99モル%以上、ことに好ましくは、100モル%の非脂環式ジイソシアネートを含む有機ジイソシアネートを用いて得られる。

[0036] 各非脂環式ジイソシアネートは単独で用いても、2種以上を組み合わせ用いてもよい。これらの中では、有機ジイソシアネートが、芳香族ジイソシアネート、さらには、4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート、2,4-トリレンジイソシアネート、2,6-トリレンジイソシアネート、及びイソホロンジイソシアネートを含むこと、とくには、4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネートを100モル%含むことが、平坦化性がとくに優れた研磨パッドが得られる点からとくに好ましい。

[0037] なお、本発明の効果を損なわない範囲で、非脂環式ジイソシアネートに脂環式ジイソシアネートを組み合わせ用いてもよい。脂環式ジイソシアネートは、脂肪族環式構造を有するジイソシアネート化合物である。その具体例

としては、例えば、イソプロピリデンビス（4-シクロヘキシルイソシアネート），シクロヘキシルメタンジイソシアネート，メチルシクロヘキサンジイソシアネート，4,4'-ジシクロヘキシルメタンジイソシアネート，シクロヘキシレンジイソシアネート，メチルシクロヘキシレンジイソシアネート，ビス（2-イソシアナトエチル）-4-シクロヘキセン、等が挙げられる。脂環式ジイソシアネートの含有割合が高すぎる場合には、吸湿性高分子との相溶性が低くなり、また、平坦化性も低下し易くなる傾向がある。

[0038] 高分子ジオールは、数平均分子量が300以上のジオールであり、例えば、ポリエーテルジオール，ポリエステルジオール，ポリカーボネートジオール，またはこれらを組み合わせた高分子ジオール等が挙げられる。

[0039] ポリエーテルジオールの具体例としては、例えば、ポリ（エチレングリコール），ポリ（プロピレングリコール），ポリ（テトラメチレングリコール），ポリ（メチルテトラメチレングリコール），ポリ（オキシプロピレングリコール），グリセリンベースポリアルキレンエーテルグリコール等が挙げられる。これらは単独で用いても、2種以上を組み合わせ用いてもよい。これらの中では、ポリ（エチレングリコール）及びポリ（テトラメチレングリコール）が、非脂環式熱可塑性ポリウレタンのハードセグメントとの相溶性にとくに優れる点から好ましい。

[0040] ポリエステルジオールとは、ジカルボン酸または、そのエステル，無水物等のエステル形成性誘導体と、低分子ジオールと、を直接エステル化反応またはエステル交換反応させることにより製造された主鎖にエステル構造を有する高分子ジオールである。

[0041] ジカルボン酸の具体例としては、例えば、シュウ酸，コハク酸，グルタル酸，アジピン酸，ピメリン酸，スベリン酸，アゼライン酸，セバシン酸，ドデカンジカルボン酸，2-メチルコハク酸，2-メチルアジピン酸，3-メチルアジピン酸，3-メチルペンタン二酸，2-メチルオクタン二酸，3,8-ジメチルデカン二酸，3,7-ジメチルデカン二酸等の炭素数2～12の脂肪族ジカルボン酸；トリグリセリドの分留により得られる不飽和脂肪酸を二量化した炭素数

14～48の二量化脂肪族ジカルボン酸（ダイマー酸）およびその水素添加物（水添ダイマー酸）；1,4-シクロヘキサンジカルボン酸などの脂環族ジカルボン酸；テレフタル酸，イソフタル酸，オルトフタル酸等の芳香族ジカルボン酸などが挙げられる。これらは単独で用いても、2種以上を組み合わせ用いてもよい。

[0042] 低分子ジオールの具体例としては、例えば、エチレングリコール，1,3-プロパンジオール，1,2-プロパンジオール，2-メチル-1,3-プロパンジオール，1,4-ブタンジオール，ネオペンチルグリコール，1,5-ペンタンジオール，3-メチル-1,5-ペンタンジオール，1,6-ヘキサジオール，1,7-ヘプタンジオール，1,8-オクタンジオール，2-メチル-1,8-オクタンジオール，1,9-ノナンジオール，1,10-デカンジオール等の脂肪族ジオール；1,4-シクロヘキサンジメタノール等のシクロヘキサンジメタノールや1,4-シクロヘキサジオール等の脂環式ジオール；などが挙げられる。これらは単独で用いても、2種以上を組み合わせ用いてもよい。これらの中では、炭素数3～12、さらには炭素数4～9の低分子ジオールが好ましい。

[0043] また、ポリカーボネートジオールは、低分子ジオールと、ジアルキルカーボネート，アルキレンカーボネート，ジアリールカーボネート等のカーボネート化合物と、の反応により得られる。低分子ジオールとしては、上述したような低分子ジオールが挙げられる。また、ジアルキルカーボネートの具体例としては、例えば、ジメチルカーボネート，ジエチルカーボネートが挙げられる。また、アルキレンカーボネートの具体例としては、例えば、エチレンカーボネートが挙げられる。また、ジアリールカーボネートの具体例としては、例えば、ジフェニルカーボネートが挙げられる。

[0044] 高分子ジオールの中では、ポリ（エチレングリコール），ポリ（テトラメチレングリコール）等のポリエーテルジオールや、ポリ（ノナメチレンアジペート）ジオール，ポリ（2-メチル-1,8-オクタメチレンアジペート）ジオール，ポリ（2-メチル-1,8-オクタメチレン-*c o*-ノナメチレンアジペート）ジオール，ポリ（メチルペンタンアジペート）ジオール等のポリエステルジ

オール、とくには炭素数6～12の低分子ジオール単位を含むポリエステルジオールが、非脂環式熱可塑性ポリウレタンの鎖伸長剤単位に由来するハードセグメントとの相溶性にとくに優れる点から好ましい。

[0045] 高分子ジオールの数平均分子量は300以上であり、300超～2,000、さらには350～2,000、とくには500～1,500、ことには600～1,000であることが、非脂環式熱可塑性ポリウレタンのハードセグメントとの相溶性を高く維持することができ、それにより、とくに被研磨面にスクラッチを発生させにくい研磨層が得られる点から好ましい。なお、高分子ジオールの数平均分子量は、JIS K1557に準拠して測定した水酸基価に基づいて算出した数平均分子量である。

[0046] 鎖伸長剤としては、イソシアネート基と反応し得る活性水素原子を分子中に2個以上有する分子量300以下の化合物である、ポリウレタンの製造に従来から使用されている鎖伸長剤が用いられる。

[0047] 鎖伸長剤の具体例としては、例えば、エチレングリコール、ジエチレングリコール、プロピレングリコール、2,2-ジエチル-1,3-プロパンジオール、1,2-, 1,3-, 2,3-または1,4-ブタンジオール、1,5-ペンタンジオール、ネオペンチルグリコール、1,6-ヘキサジオール、3-メチル-1,5-ペンタンジオール、1,4-ビス(β -ヒドロキシエトキシ)ベンゼン、1,4-シクロヘキサジオール、ビス-(β -ヒドロキシエチル)テレフタレート、1,9-ノナンジオール、m-またはp-キシリレングリコールなどのジオール類；エチレンジアミン、トリメチレンジアミン、テトラメチレンジアミン、ヘキサメチレンジアミン、ヘプタメチレンジアミン、オクタメチレンジアミン、ノナメチレンジアミン、デカメチレンジアミン、ウンデカメチレンジアミン、ドデカメチレンジアミン、2,2,4-トリメチルヘキサメチレンジアミン、2,4,4-トリメチルヘキサメチレンジアミン、3-メチルペンタメチレンジアミン、1,2-シクロヘキサジアミン、1,3-シクロヘキサジアミン、1,4-シクロヘキサジアミン、1,2-ジアミノプロパン、1,3-ジアミノプロパン、ヒドラジン、キシリレンジアミン、イソホロンジアミン、ピペラジン、o-, m-またはp-フェニレンジア

ミン、トリレンジアミン、キシレンジアミン、アジピン酸ジヒドラジド、イソフタル酸ジヒドラジド、4,4'-ジアミノジフェニルメタン、4,4'-ジアミノジフェニルエーテル、4,4'-ビス(4-アミノフェノキシ)ビフェニル、4,4'-ビス(3-アミノフェノキシ)ビフェニル、1,4'-ビス(4-アミノフェノキシ)ベンゼン、1,3'-ビス(4-アミノフェノキシ)ベンゼン、1,3-ビス(3-アミノフェノキシ)ベンゼン、3,4'-ジアミノジフェニルエーテル、4,4'-ジアミノジフェニルスルフォン、3,4-ジアミノジフェニルスルフォン、3,3'-ジアミノジフェニルスルフォン、4,4'-メチレンービス(2-クロロアニリン)、3,3'-ジメチル-4,4'-ジアミノビフェニル、4,4'-ジアミノジフェニルスルフィド、2,6'-ジアミノトルエン、2,4-ジアミノクロロベンゼン、1,2-ジアミノアントラキノン、1,4-ジアミノアントラキノン、3,3'-ジアミノベンゾフェノン、3,4-ジアミノベンゾフェノン、4,4'-ジアミノベンゾフェノン、4,4'-ジアミノビベンジル、R(+)-2,2'-ジアミノ-1,1'-ビナフタレン、S(+)-2,2'-ジアミノ-1,1'-ビナフタレン、1,3-ビス(4-アミノフェノキシ)C3-10アルカン、1,4-ビス(4-アミノフェノキシ)C3-10アルカン、1,5-ビス(4-アミノフェノキシ)C3-10アルカン等の1,n-ビス(4-アミノフェノキシ)C3-10アルカン(nは3~10)、1,2-ビス[2-(4-アミノフェノキシ)エトキシ]エタン、9,9-ビス(4-アミノフェニル)フルオレン、4,4'-ジアミノベンズアニリドなどのジアミン類などが挙げられる。これらは単独で用いても、2種以上を組み合わせ用いてもよい。

[0048] 鎖伸長剤の中では、1,3-プロパンジオール、1,4-ブタンジオール、ネオペンチルグリコール、1,5-ペンタンジオール、1,6-ヘキサジオール、1,9-ノナンジオール及び1,4-シクロヘキサジメタノールが、高分子ジオール単位に由来するソフトセグメントとの相溶性に優れる点からとくに好ましい。

[0049] 鎖伸長剤の分子量は300以下であり、60~300であることがハードセグメントとソフトセグメントとの相溶性に優れる点からとくに好ましい。

[0050] 非脂環式熱可塑性ポリウレタンは、上述したような、非脂環式ジイソシアネートを含む有機ジイソシアネート、高分子ジオール、及び鎖伸長剤、を含

むポリウレタン原料を反応させて得られる。非脂環式熱可塑性ポリウレタンの製造には、ウレタン化反応を行うプレポリマー法またはワンショット法等を用いた、公知のポリウレタンの合成方法がとくに限定なく用いられる。とくには、実質的に溶剤の不存在下で、ポリウレタン原料を熔融重合させる方法、とくには、多軸混練押出機を用いてポリウレタン原料を連続熔融重合させる方法が、連続生産性に優れる点からとくに好ましい。

[0051] ポリウレタン原料における、高分子ジオール、有機ジイソシアネート及び鎖伸長剤の配合割合は、適宜調整されるが、高分子ジオール及び鎖伸長剤に含まれる活性水素原子1モルに対して、有機ジイソシアネートに含まれるイソシアネート基が0.95～1.30モル、さらには0.96～1.10モル、とくには0.97～1.05モルになるように各成分を配合することが、得られる研磨層の機械的強度や耐摩耗性に優れる点から好ましい。

[0052] また、ポリウレタン原料における、高分子ジオールと有機ジイソシアネートと鎖伸長剤との質量比（高分子ジオールの質量：有機ジイソシアネート及び鎖伸長剤の合計質量）としては、10：90～50：50、さらには、15：85～40：60、とくには20：80～30：70であることが好ましい。

[0053] 非脂環式熱可塑性ポリウレタンの、イソシアネート基に由来する窒素原子の含有割合としては、4.5～7.5質量%、さらには、5.0～7.3質量%、とくには5.3～7.0質量%であることが、適度な硬度を有することにより被研磨面の平坦化性及び研磨効率のとくに高い、また、スクラッチの発生がとくに抑制される研磨層が得られる点から好ましい。

[0054] このようにして得られる非脂環式熱可塑性ポリウレタンとしては、ポリ（エチレングリコール）、ポリ（テトラメチレングリコール）、ポリ（ノナメチレンアジペート）ジオール、ポリ（2-メチル-1,8-オクタメチレンアジペート）ジオール、ポリ（2-メチル-1,8-オクタメチレン-ε-ノナメチレンアジペート）ジオール及びポリ（メチルペンタンアジペート）ジオール等の高分子ジオールと、4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート、2,4-トリレンジ

イソシアネート及び2,6-トリレンジイソシアネート等の有機ジイソシアネートと、1,3-プロパンジオール、1,4-ブタンジオール、ネオペンチルグリコール、1,5-ペンタンジオール、1,6-ヘキサジオール、及び1,4-シクロヘキサンジメタノールからなる群から選ばれる少なくとも一つの鎖伸長剤と、を反応させて得られる熱可塑性ポリウレタンが、光透過性に優れるために、CMPにおいて研磨量を光学的に検知する手段を採用しやすい点から好ましい。

[0055] 非脂環式熱可塑性ポリウレタンの重量平均分子量としては、80,000～200,000、さらには120,000～180,000であることが、吸湿性高分子との相溶性にとくに優れる点から好ましい。なお、重量平均分子量は、ゲル浸透クロマトグラフィーで測定されたポリスチレン換算された重量平均分子量である。

[0056] なお、本実施形態のポリウレタン組成物には、本発明の効果を損なわない範囲で、有機ジイソシアネート単位に非脂環式ジイソシアネートを含まない熱可塑性ポリウレタン（以下、脂環式熱可塑性ポリウレタンとも称する）を含有してもよい。脂環式熱可塑性ポリウレタンを含有する場合、ポリウレタン組成物中の脂環式熱可塑性ポリウレタンの含有割合としては、0～9.9質量%、さらには、0～5質量%であることが好ましい。

[0057] 本実施形態のポリウレタン組成物は吸湿性高分子を含む。吸湿性高分子は、ポリウレタン組成物の成形体である研磨層のドレス性をとくに向上させる作用を有する。

[0058] 吸湿性高分子とは、吸湿率が0.1%以上の高分子であり、好ましくは、0.1～5.0%、さらに好ましくは0.1～3.0%、とくに好ましくは0.5～3.0%、とくに好ましくは0.7～2.5%、の吸湿率を有する高分子と定義される。なお、吸湿性高分子の吸湿率は、混合される吸湿性高分子の5.0gの粒子をガラス製の皿に薄く広げ、50℃の熱風乾燥機内で48時間放置して乾燥させた後、23℃、50%RHの恒温恒湿条件で24時間放置したときの質量の変化に基づいて計算される。具体的には、23℃、50%RHの恒温恒湿条件での処理の直前における重量(W1)と、上記

23℃、50%RHの恒温恒湿条件での処理後の重量(W2)を測定し、下記の計算式から求められる。

$$\text{吸湿率 (\%)} = \{ (W2 - W1) / W1 \} \times 100$$

[0059] このような吸湿性高分子としては、ポリメチレンオキサイド構造、ポリエチレンオキサイド構造、ポリプロピレンオキサイド構造、ポリテトラメチレンオキサイド構造、ポリブチレンオキサイド構造等のポリアルキレンオキサイド構造を有する高分子が挙げられる。

[0060] このような吸湿性高分子の具体例としては、例えば、ポリエチレンオキサイド(PEO)、ポリプロピレンオキサイド(PPO)、PEO-PPOブロックコポリマー、ポリエステル系熱可塑性エラストマー(TPEE)、ポリメチレンオキサイドアルキルエーテル、ポリエチレンオキサイドアルキルエーテル、ポリエチレンオキサイドアルキルフェニルエーテル、ポリエチレンオキサイドステロールエーテル、ポリエチレンオキサイドラノリン誘導体、ポリエチレンオキサイド-ポリプロピレンオキサイドコポリマー、ポリエチレンオキサイド-ポリプロピレンアルキルエーテルなどのエーテル型の吸湿性高分子；ポリエチレンオキサイドグリセリン脂肪酸エステル、ポリエチレンオキサイドソルビタン脂肪酸エステル、ポリエチレンオキサイドソルビトール脂肪酸エステル、ポリエチレンオキサイド脂肪酸アルカノールアミド硫酸塩ポリエチレングリコール脂肪酸エステル、エチレングリコール脂肪酸エステル、等のエーテルエステル型の吸湿性高分子；等が挙げられる。

[0061] 吸湿性高分子の重量平均分子量としては、5,000~10,000,000、さらには10,000~10,000,000、さらには30,000~7,000,000、とくには70,000~4,000,000であることが非脂環式熱可塑性ポリウレタンとの相溶性にとくに優れる点から好ましい。なお、吸湿性高分子の重量平均分子量は、ゲル浸透クロマトグラフィー(ポリスチレン換算)によって測定された値である。

[0062] 吸湿性高分子は、研磨層のドレス性を向上させる。吸湿性高分子は、非脂環式熱可塑性ポリウレタンのソフトセグメントとの相溶性が高い。一方、非

脂環式熱可塑性ポリウレタンのハードセグメントとは相溶性が低い。

- [0063] ポリウレタン組成物中の非脂環式熱可塑性ポリウレタンの含有割合は90～99.9質量であり、95～99.9質量、さらには、99～99.9質量%であることが好ましい。非脂環式熱可塑性ポリウレタンの含有割合が90質量%未満である場合には、平坦化性及び研磨速度が低下し、99.9質量%超である場合には、吸湿性高分子の含有割合が0.1質量%未満になり、ドレス性向上効果及びスクラッチの発生を低減させる効果が低下する。
- [0064] また、ポリウレタン組成物における吸湿性高分子の含有割合は0.1～10質量%であり、0.1～5質量%、さらには、0.1～1質量%であることが好ましい。吸湿性高分子の含有割合が0.1質量%未満である場合には、ドレス性向上効果及びスクラッチの発生を低減させる効果が低下する。また、吸湿性高分子の含有割合が10質量%超である場合には、水で膨潤させたときの破断伸度が高くなりすぎて、ドレス性が低下する傾向がある。
- [0065] 本実施形態のポリウレタン組成物は、本発明の効果を損なわない範囲で、必要に応じて、架橋剤、充填剤、架橋促進剤、架橋助剤、軟化剤、粘着付与剤、老化防止剤、加工助剤、密着性付与剤、無機充填剤、有機フィラー、結晶核剤、耐熱安定剤、耐候安定剤、帯電防止剤、着色剤、滑剤、難燃剤、難燃助剤（酸化アンチモンなど）、ブルーミング防止剤、離型剤、増粘剤、酸化防止剤、導電剤等の添加剤を含有してもよい。なお、本実施形態のポリウレタン組成物の成形体は無発泡成形体であることが好ましいために、発泡剤は含有しないことが好ましい。
- [0066] ポリウレタン組成物は、非脂環式熱可塑性ポリウレタン、吸湿性高分子及び必要に応じて配合されるその他の熱可塑性ポリウレタンや添加剤を含む配合物を熔融混練することにより調製される。さらに詳しくは、非脂環式熱可塑性ポリウレタン、吸湿性高分子、及び必要に応じて配合されるその他の熱可塑性ポリウレタンや添加剤をヘンシェルミキサー、リボンブレンダー、V型ブレンダー、タンブラー等により均一に混合して調製された配合物を、一軸又は多軸混練押出機、ロール、バンバリーミキサー、ラボプラスミル（

登録商標) やブラベンダー等で熔融混練することにより調製される。熔融混練する際の温度と混練時間は、非脂環式熱可塑性ポリウレタンの種類や割合、熔融・混練機の種類等により適宜選択する。一例としては、熔融温度は200～300℃の範囲が好ましい。

[0067] ポリウレタン組成物は研磨層用の成形体に成形される。成形方法は特に限定されないが、熔融混合物を、Tダイを用いて押出成形したり射出成形したりする方法が挙げられる。とくには、Tダイを用いた押出成形が均一な厚さの研磨層用の成形体が容易に得られる点から好ましい。このようにして研磨層用の成形体を得られる。

[0068] 研磨層用の成形体は、無発泡成形体であることが、硬度が高くなるために特に優れた平坦化性を発揮する点、表面に気孔がなく研磨屑の堆積が起らないためにスクラッチの発生を低減させる点、及び、研磨層の摩耗速度が小さく長時間使用可能である点から好ましい。

[0069] 成形体は、JIS K 7215準拠のタイプDデュロメータで荷重保持時間5秒間の条件で測定された、75～90のデュロメータD硬度を有する。このような高い硬度を有することにより、高い平坦化性と高い研磨速度が維持される。デュロメータD硬度が75未満の場合、研磨層が柔らかくなり、研磨効率が低下する。一方、デュロメータD硬度が91以上の場合、スクラッチが発生しやすくなる。

[0070] また、成形体は、ビッカース硬さが21以上であることが、平坦化性にとくに優れた研磨層が得られる点から好ましい。ここで、ビッカース硬さとは、JIS Z 2244準拠のビッカース圧子で測定された硬さと定義される。このようなビッカース硬さの上限は特に限定はないが、例えば90である。

[0071] また、成形体の延伸性、とくに、スラリーを吸収したときの延伸性が高い場合には、研磨層の研磨面を荒らしやすくなってドレス性が向上する。そのため、成形体の、50℃の水で飽和膨潤させたときの、飽和膨潤時破断伸度 S_1 としては、50～250%、さらには50～230%、とくには50～200%であることが好ましい。また、成形体の、湿度48RH%、23℃に

における乾燥時破断伸度 S_2 としては、0.1～10%、さらには1～10%、とくには2～9%であることが好ましい。また、飽和膨潤時破断伸度 S_1 と乾燥時破断伸度 S_2 との比 S_1/S_2 が20～50であることが、ドレス性及び平坦化性にとくに優れた研磨層が得られる点から好ましい。

[0072] また、成形体は、50℃の水で飽和膨潤させたときの、厚さ0.5mmのシートにおける550nmのレーザー波長に対するレーザー光透過率が60%以上であることが、発生するスクラッチをより低減させやすく、また、ウエハ等の被研磨基板の被研磨面を研磨しながら研磨終点を決定するような光学的手段を用いた検査が採用しやすい点から好ましい。

[0073] また、成形体は、50℃の水で飽和膨潤させたときの貯蔵弾性率が、0.1～1.0GPa、さらには0.2～0.9GPa、とくには0.3～0.8GPaであることが、より高い平坦化性を保持させやすい点から好ましい。50℃の水で飽和膨潤させたときの貯蔵弾性率が低すぎる場合には、研磨層が柔らかくなり、平坦化性が低下したり、研磨速度が低下したりしやすくなる傾向がある。また、50℃の水で飽和膨潤させたときの貯蔵弾性率が高すぎる場合には、スクラッチが発生し易くなる傾向がある。

[0074] また、成形体の水との接触角は、80度以下、さらには50度以下、とくには60度以下であることが好ましい。接触角が高すぎる場合には、スクラッチが発生しやすくなる場合がある。

[0075] 次に、このような研磨層用の成形体を研磨層として含む研磨パッドについて説明する。本実施形態の研磨パッドは、研磨層用の成形体から円形等の断片を切り出すことにより形成される研磨層を含む。

[0076] 研磨層は、上記のようにして得られた研磨層用の成形体を切削、スライス、バフ、打ち抜き加工等により寸法、形状、厚さ等を調整して製造される。また、研磨層の研磨面には、研磨面にスラリーを均一かつ充分に供給させるために、溝や穴のような凹部が形成されることが好ましい。このような凹部は、スクラッチの発生の原因となる研磨屑の排出や、研磨パッドの吸着によるウエハ破損の防止にも役立つ。

- [0077] 研磨層の厚さは特に限定されないが、例えば、0.8～3.0mm、さらには1.0～2.5mm、とくには1.2～2.0mmであることが好ましい。
- [0078] 研磨パッドは、上述したようなポリウレタン組成物の成形体である研磨層を含む研磨パッドであり、研磨層のみからなる単層型研磨パッドであっても、研磨層の裏面にクッション層等をさらに積層した複層型研磨パッドであってもよい。クッション層としては、研磨層の硬度よりも低い硬度を有する層である場合には、ドレス性を維持しながら、研磨均一性を向上させることができる点から好ましい。
- [0079] クッション層として用いられる素材の具体例としては、不織布にポリウレタンを含浸させた複合体（例えば、「Suba400」（ニッタ・ハース（株）製））；天然ゴム，ニトリルゴム，ポリブタジエンゴム，シリコーンゴム等のゴム；ポリエステル系熱可塑性エラストマー，ポリアミド系熱可塑性エラストマー，フッ素系熱可塑性エラストマー等の熱可塑性エラストマー；発泡プラスチック；ポリウレタン等が挙げられる。これらの中では、クッション層として好ましい柔軟性が得られやすい点から、発泡構造を有するポリウレタンがとくに好ましい。
- [0080] 以上説明した本実施形態の研磨パッドはCMPに好ましく用いられる。次に、本実施形態の研磨パッド10を用いたCMPの一実施形態について説明する。
- [0081] CMPにおいては、例えば、図1に示すような円形のプラテン1と、スラリー6を供給するためのスラリー供給ノズル2と、キャリア3と、ドレッサー4とを備えたCMP装置20が用いられる。プラテン1の表面に、研磨パッド10が両面粘着シート等により貼付けられる。また、キャリア3は被研磨基板5を支持する。
- [0082] CMP装置20においては、プラテン1は、図略のモータにより、例えば、矢印に示す方向に回転する。また、キャリア3は、被研磨基板5の被研磨面を研磨パッド10の研磨面に圧接しながら、図略のモータにより例えば矢

印に示す方向に回転する。ドレッサー4は、例えば矢印に示す方向に回転する。

[0083] 研磨パッドを用いるとき、被研磨基板の研磨に先立って、または、研磨しながら、研磨パッドの研磨面を細かく荒らして研磨に適した粗さを形成するためのドレッシングが行われる。具体的には、プラテン1に固定されて回転する研磨パッド10の表面に水を流しながら、CMP用のドレッサー4を押し当て、研磨パッド10の表面のドレッシングを行う。ドレッサーとしては、例えば、ダイヤモンド粒子をニッケル電着等により担体表面に固定したダイヤモンドドレッサーが用いられる。

[0084] ドレッサーの種類としては、ダイヤモンド番手#60～200が好ましいが、研磨層の樹脂組成や研磨条件に合わせて適宜選択することができる。また、ドレッサー荷重としては、ドレッサーの直径にもよるが、直径150mm以下の場合には5～50N、直径150～250mmの場合には10～250N、直径250mm以上の場合には50～300N程度が好ましい。また、回転速度としては、ドレッサーとプラテンがそれぞれ10～200rpmであることが好ましいが、回転の同期を防ぐためにドレッサーとプラテンの回転数が異なることが好ましい。

[0085] 高硬度の研磨層を有する研磨パッドの場合、研磨層の研磨面が充分に粗くなりにくかった。また、研磨に適した粗さを形成するために時間を要することがあった。また、未使用の研磨パッドの表面を荒らすブ레이크インにおいても時間を要する場合があった。本実施形態の研磨パッドによれば研磨面が充分に粗くなり、また、ドレッシングの時間も短縮化される。

[0086] 本実施形態の研磨パッドにおいては、算術表面粗さRaが4.0～8.0μm、さらには、4.2～8.0μmであるような粗い表面を形成することが好ましい。算術表面粗さが低く、ドレッシングが不十分な場合には、研磨面にスラリーを充分に保持しにくくなり、研磨速度が低下する傾向がある。また、算術表面粗さRaが高すぎる場合には、研磨パッドの表層が被研磨基板の被研磨面に固体接触し、スクラッチが発生しやすくなる懸念がある。

[0087] そして、ドレッシングが完了した後、被研磨基板の被研磨面の研磨を開始する。研磨においては、回転する研磨パッドの表面にスラリー供給ノズル2からスラリー6を供給する。スラリーは、例えば、水やオイル等の液状媒体；シリカ，アルミナ，酸化セリウム，酸化ジルコニウム，炭化ケイ素等の研磨剤；塩基，酸，界面活性剤，酸化剤，還元剤，キレート剤等を含有している。またCMPを行うに際し、必要に応じ、スラリーと共に、潤滑油、冷却剤などを併用してもよい。そして、研磨面にスラリーが満遍なく行き渡った研磨パッドに、キャリアに固定されて回転する被研磨基板を押し当てる。そして、所定の平坦度や研磨量が得られるまで、研磨が続けられる。研磨時に作用させる押し付け力やプラテンの回転とキャリアの相對運動の速度を調整することにより、仕上がり品質が影響を受ける。

[0088] 研磨条件は特に限定されないが、効率的に研磨を行うためには、定盤及び被研磨基板のそれぞれの回転速度は300rpm以下の低回転が好ましい。また、研磨パッドの研磨面に圧接するために被研磨基板に掛ける圧力は、研磨後に傷が発生しないようにするという見地から、150kPa以下とすることが好ましい。また、研磨している間、研磨パッドには、研磨面にスラリーが満遍なく行き渡るようにスラリーを連続または不連続に供給することが好ましい。

[0089] そして、研磨終了後の被研磨基板をよく洗浄した後、スピンドライヤ等を用いて被研磨基板に付着した水滴を払い落として乾燥させる。このようにして、被研磨面が平滑な面になる。

[0090] このような本実施形態のCMPは、各種半導体デバイス、MEMS (Micro Electro Mechanical Systems) 等の製造プロセスにおける研磨に好ましく用いられる。研磨対象の例としては、例えば、シリコン，炭化ケイ素，窒化ガリウム，ガリウムヒ素，酸化亜鉛，サファイヤ，ゲルマニウム，ダイヤモンドなどの半導体基板；所定の配線を有する配線板に形成されたシリコン酸化膜，シリコン窒化膜，low-k膜などの絶縁膜や、銅，アルミニウム，タングステンなどの配線材料；ガラス，水晶，光学基板，ハードディスク等が

挙げられる。本実施形態の研磨パッドは、とくには、半導体基板上に形成された絶縁膜や配線材料を研磨する用途に好ましく用いられる。

実施例

[0091] 以下、本発明を実施例により具体的に説明する。本発明の範囲はこれらの実施例によって何ら限定されるものではない。

[0092] はじめに本実施例で用いた吸湿性高分子を以下にまとめて示す。

[0093] <吸湿性高分子>

- ・ 重量平均分子量30,000のポリエチレンオキサイド (PE030,000) ; 吸湿率0.7% (0.1~3.0%の範囲)
- ・ 重量平均分子量100,000のポリエチレンオキサイド (PE0100,000) ; 吸湿率0.5%
- ・ 重量平均分子量1,000,000のポリエチレンオキサイド (PE01,000,000) ; 吸湿率1.6% (0.1~3.0%の範囲)
- ・ 重量平均分子量7,000,000のポリエチレンオキサイド (PE07,000,000) ; 吸湿率2.5% (0.1~3.0%の範囲)
- ・ 重量平均分子量100,000のポリエチレンオキサイドープロピレンオキサイドブロック共重合体 (PE0-PP0100,000) ; 吸湿率0.7% (0.1~3.0%の範囲)
- ・ 重量平均分子量1,000,000のポリエチレンオキサイドープロピレンオキサイドブロック共重合体 (PE0-PP01,000,000) ; 吸湿率1.3% (0.1~3.0%の範囲)
- ・ 重量平均分子量7,000,000ポリエチレンオキサイドープロピレンオキサイドブロック共重合体 (PE0-PP07,000,000) ; 吸湿率2.1% (0.1~3.0%の範囲)
- ・ ポリエステル系熱可塑性エラストマー (TPEE) ; 吸湿率1.2% (0.1~3.0%の範囲)

[0094] <アクリルニトリルースチレン共重合体>

- ・ アクリルニトリルースチレン共重合体 ; 吸湿率0.08%

[0095] なお、高分子の吸湿率は、以下のようにして測定した。

[0096] 各高分子の5.0gの粒子をガラス製の皿に薄く広げ、50℃の熱風乾燥機内で48時間放置して乾燥させた。その後、23℃、50%RHの恒温恒湿条件で24時間放置した。そして、23℃、50%RHの恒温恒湿条件での処理の直前における重量(W1)と、上記23℃、50%RHの恒温恒湿条件での処理後の重量(W2)を測定し、下記の計算式から求めた。

[0097] 吸湿率(%) = $\{(W2 - W1) / W1\} \times 100$

[0098] また、本実施例で用いたポリウレタンの製造例を以下に示す。

[0099] [製造例1]

数平均分子量600のポリ(エチレングリコール) [略号:PEG]、1,4-ブタンジオール [略号:BD]、1,5-ペンタンジオール [略号:MPD]、及び4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート [略号:MDI]を、PEG:BD:MPD:MDIの質量比が15.2:14.2:8.0:62.6となるような割合で配合した配合物を調製した。

[0100] そして、配合物を定量ポンプにより同軸で回転する2軸押出機に連続的に供給し、熔融した配合物をストランド状に水中に連続的に押出した後、ペレタイザーで細断してペレット化した。このようにしてポリウレタン原料を連続熔融重合させることにより、非脂環式熱可塑性ポリウレタンIを製造した。非脂環式熱可塑性ポリウレタンIは、有機ジイソシアネート単位の総量中に非脂環式ジイソシアネート単位であるMDIを100モル%含む。非脂環式熱可塑性ポリウレタンIの重量平均分子量は120,000であった。そして、得られたペレットを70℃で20時間除湿乾燥した。

[0101] [製造例2]

数平均分子量850のポリ(テトラメチレングリコール) [略号:PTMG]、1,4-ブタンジオール [略号:BD]、1,5-ペンタンジオール [略号:MPD]、及び4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート [略号:MDI]を、PTMG:BD:MPD:MDIの質量比が10.2:15.7:8.8:65.3となるような割合で配合した配合物を調製した。この配合物を

用いた以外は、製造例 1 と同様にしてポリウレタン原料を連続溶融重合させることにより、非脂環式熱可塑性ポリウレタン I I を製造した。非脂環式熱可塑性ポリウレタン I I は、有機ジイソシアネート単位の総量中に非脂環式ジイソシアネート単位である MDI を 100 モル%含む。非脂環式熱可塑性ポリウレタン I I の重量平均分子量は 120,000 であった。そして、得られたペレットを 70℃ で 20 時間除湿乾燥した。

[0102] [製造例 3]

数平均分子量 600 のポリ（エチレングリコール）[略号：PEG]、1,4-ブタンジオール[略号：BD]、1,5-ペンタンジオール[略号：MPD]、及びヘキサメチレンジイソシアネート[略号：HDI]を、PEG：BD：MPD：HDI の質量比が 11.6：16.5：9.3：62.6 となるような割合で配合した配合物を調製した。この配合物を用いた以外は、製造例 1 と同様にしてポリウレタン原料を連続溶融重合させることにより、非脂環式熱可塑性ポリウレタン I I I を製造した。非脂環式熱可塑性ポリウレタン I I I は、有機ジイソシアネート単位の総量中に非脂環式ジイソシアネート単位である HDI を 100 モル%含む。非脂環式熱可塑性ポリウレタン I I I の重量平均分子量は 120,000 であった。そして、得られたペレットを 70℃ で 20 時間除湿乾燥した。

[0103] [製造例 4]

数平均分子量 600 のポリ（エチレングリコール）[略号：PEG]、1,4-ブタンジオール[略号：BD]、1,5-ペンタンジオール[略号：MPD]、およびイソホロンジイソシアネート[略号：IPDI]を、PEG：BD：MPD：IPDI の質量比が 15.2：14.2：8.0：62.6 となるような割合で配合した配合物を調製した。この配合物を用いた以外は、製造例 1 と同様にしてポリウレタン原料を連続溶融重合させることにより、脂環式熱可塑性ポリウレタン I V を製造した。脂環式熱可塑性ポリウレタン I V は、有機ジイソシアネート単位の総量中に脂環式ジイソシアネート単位である IPDI を 100 モル%含む。脂環式熱可塑性ポリウレタン I V の重量平

均分子量は120,000であった。そして、得られたペレットを70℃で20時間除湿乾燥した。

[0104] [製造例5]

数平均分子量600のポリ（エチレングリコール）[略号：PEG]、1,4-ブタンジオール[略号：BD]、1,5-ペンタンジオール[略号：MPD]、およびシクロヘキサンメチルイソシアネート[略号：CHI]を、PEG：BD：MPD：CHIの質量比が15.2：14.2：8.0：62.6となるような割合で配合した配合物を調製した。この配合物を用いた以外は、製造例1と同様にしてポリウレタン原料を連続溶融重合させることにより、脂環式熱可塑性ポリウレタンVを製造した。脂環式熱可塑性ポリウレタンVは、有機ジイソシアネート単位の総量中に脂環式ジイソシアネート単位であるCHIを100モル%含む。脂環式熱可塑性ポリウレタンVの重量平均分子量は120,000であった。そして、得られたペレットを70℃で20時間除湿乾燥した。なお、シクロヘキサンメチルイソシアネートとしては、1,3-Bis(isocyanatomethyl)cyclohexane（三井化学（株）タケネート600 登録商標）を用いた。

[0105] [実施例1]

非脂環式熱可塑性ポリウレタンIを小型ニーダーに仕込み、温度240℃、スクリー回転数100rpm、混練時間1分間の条件で溶融混練した。そして、非脂環式熱可塑性ポリウレタンI：PE0100,000=99.5：0.5の質量比になるように、PE0100,000を小型ニーダーに添加し、さらに、温度240℃、スクリー回転数60rpm、混練時間2分間の条件で溶融混練した。さらに、温度240℃、スクリー回転数100rpm、混練時間4分間の条件で溶融混練した。

[0106] そして、得られた溶融混合物を減圧乾燥機内で、70℃で16時間以上放置して、乾燥した。そして、乾燥された溶融混合物を金属板に挟み、熱プレス成形機に挟み、溶融混合物を加熱温度230℃で2分間の条件で溶融させた後、ゲージ圧40kg/cm²で加圧して1分間放置した。そして、それら

を室温で冷却した後、熱プレス成形機及び金属板に挟まれた厚さ2.0 mmの成形体を取り出した。

- [0107] そして、得られた厚さ2.0 mmの成形体を110℃で3時間熱処理した後、切削加工することにより30 mm×50 mmの矩形の試験片を切り出した。そして、その試験片に切削加工することにより、同心円状の筋状溝（幅1.0 mm、深さ1.0 mm、溝間隔6.5 mm）を形成した。そして、厚さ2.0 mmの円形の非脂環式熱可塑性ポリウレタンIの成形体にその試験片を収容する凹部を形成し、その凹部に試験片をはめ込むことにより、評価用の無発泡成形体の研磨層を得た。そして、以下のように評価した。

- [0108] [成形体のデュロメータD硬度]

JIS K 7215準拠のタイプDデュロメータ（（株）島津製作所製のHARDNESS-TESTER）を用いて、荷重保持時間5秒間の条件で、厚さ2.0 mmの成形体の、タイプDデュロメータの硬度を測定した。

- [0109] [成形体のビッカース硬さ]

JIS Z2244準拠のビッカース硬さ計（（株）アカシ製HARDNESS-TESTER MVK-E2）を用いて、厚さ2.0 mmの成形体のビッカース硬さを測定した。

- [0110] [乾燥時の破断伸度及び50℃の水で飽和膨潤させたときの、成形体の飽和膨潤時破断伸度]

厚さ2.0 mmの成形体の代わりに、厚さ0.3 mmの成形体を製造した。そして、厚さ0.3 mmの成形体から2号型試験片（JIS K7113）を打ち抜いた。そして、2号型試験片を湿度48 RH%、23℃で24時間状態調整した。そして、精密万能試験機（（株）島津製作所製のオートグラフAG5000）を用いて状態調整された2号型試験片の引張試験を行い、破断伸度を測定した。引張試験の条件は、チャック間距離40 mm、引張速度500 mm/分、湿度48 RH%、23℃で行った。5本の2号型試験片の破断伸度を測定し、その平均値を乾燥時破断伸度S2（%）とした。一方、50℃の温水に2日間浸漬することにより、2号型試験片を50℃の水で飽和膨潤させた。そして、飽和膨潤させた2号型試験片についても同様にして破断伸度を測定し

、50℃の水で飽和膨潤させたときの飽和膨潤時破断伸度S1を求めた。

[0111] [50℃の水で飽和膨潤させたときの、成形体の貯蔵弾性率E']

厚さ2.0mmの成形体の代わりに、厚さ0.3mmの成形体を製造した。そして、厚さ0.3mmの成形体を110℃で3時間熱処理した後、30mm×5mmの矩形の型で試験片を打ち抜くことにより、30mm×5mmの貯蔵弾性率評価用の試験片を打ち抜いた。そして、50℃の温水に2日間浸漬することにより、貯蔵弾性率評価用の試験片を50℃の水で飽和膨潤させた。そして、動的粘弾性測定装置 [DVEレオスペクトラー (商品名、(株)レオロジー製)] を用いて、-100~180℃の測定範囲、周波数11.0Hzで、70℃における動的粘弾性率を測定することにより、50℃の水で飽和膨潤させたときの成形体の貯蔵弾性率E' を求めた。2本の試験片の貯蔵弾性率E' を測定し、その平均値を貯蔵弾性率E' (GPa) とした。

[0112] [50℃の水で飽和膨潤させたときの、成形体の光透過率]

厚さ2.0mmの成形体の代わりに、厚さ0.5mmの成形体を製造した。そして、厚さ0.5mmの成形体を110℃で3時間熱処理した後、切削加工することにより10mm×40mmの矩形に切り出した。そして、50℃の温水に2日間浸漬することにより、試験片を50℃の水で飽和膨潤させ、表面の水滴を拭きとった。そして、紫外可視分光高度計 ((株)島津製作所製の「UV-2450」) を用いて、成形体の試験片の波長550nmの光透過率を下記の条件で測定した。

- ・光源：レーザー波長 (550nm)
- ・WIランプ：50W
- ・検出ヘッド出力ヘッド間距離：10cm
- ・試験片の測定位置：検出ヘッドと出力ヘッドとの中間位置

[0113] [ドレス性 (算術表面粗さRa)]

評価用の研磨層をCMP装置 ((株)荏原製作所製FREX300) のプラテンにセットした。そして、ダイヤモンド番手#100のダイヤモンドドレッサー

（（株）旭ダイヤモンド）を用いて、スラリーを150 mL／分の速度で流しながらドレッサー回転数100 rpm、ターンテーブル回転数70 rpm、ドレッサー荷重40 Nの条件で研磨層の表面を10分間ドレッシングした。そして、ドレッシング後の研磨層の表面の算術表面粗さRaを表面粗さ測定器（（株）ミットヨ製SJ-210）で測定した。

[0114] [研磨特性評価]

評価用の研磨層をCMP装置（（株）荏原製作所製FREX300）のプラテンにセットした。そして、ダイヤモンド番手#100のダイヤモンドドレッサー（（株）旭ダイヤモンド）を用いて、スラリー（Klebosol(R)（株）DuPont）を200 mL／分の速度で流しながらドレッサー回転数100 rpm、ターンテーブル回転数70 rpm、ドレッサー荷重40 Nの条件で被研磨基板の表面を研磨した。被研磨基板としては、シリコン基板上にTEOS膜（tetraethoxy silane膜）を3000 nm積層させた「SEMATECH764（SKW Associates社製）」を用いた。上述の条件でCMPを行い、平坦化性の指標として、幅250 μm（50%デンシティ）のパターンが連続した部分について、凸部と凹部との差分（以下、残存段差とも称する）を精密段差計（（株）ブルカー製Dektak XTL）を用いて測定した。なお、残存段差は、40 nm以下、さらには35 nm以下、とくには33 nm以下である場合には、高い平坦化性を有すると判定した。また、同様にして、凸部に残る膜が50 nm未満になるまでの研磨時間を測定することにより、研磨速度を評価した。なお、研磨時間は、150 sec以下、さらには145 sec以下である場合には、高い研磨速度を有すると判定した。

[0115] そして、ウエハ欠陥検査装置（（株）ケーエルエー・テンコール社製SP-3）を用いて、研磨後の被研磨基板の表面の全面における、0.21 μmよりも大きいスクラッチの個数を計数した。なお、スクラッチが30個未満である場合には、スクラッチの発生が抑制されていると判定した。

[0116] 結果を下記表1に示す。

[0117]

[表1]

実施例番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
ポリウレタン組成物	非脂環式熱可塑性ポリウレタン	種類	I	I	I	II	II	I	I	I	I	I	I	III	I	I
		ジイソシアネート単位	MDI	MDI	MDI	MDI	MDI	MDI	MDI	MDI	MDI	MDI	MDI	HDI	MDI	MDI
		質量部	99.5	99	99	90	99	99	90	99	99	99	99	99	95	99
	脂環式熱可塑性ポリウレタン	種類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	IV	-
		ジイソシアネート単位	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	IPDI	-
		質量部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
	吸湿性高分子	種類	PEO	PEO	PEO	PEO	PEO	PEO	PEO	PEO	PEO-PPG	PEO-PPG	PEO-PPG	PEO-PPG	PEO-PPG	TPEE
			100,000	30,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000	7,000,000	100,000	1,000,000	7,000,000	100,000	1,000,000	100,000
		質量部	0.5	1	1	10	1	1	10	1	1	1	1	1	1	1
	デュロド硬度		82	82	81	76	86	81	76	83	79	80	83	82	83	82
成形体	ピッカース硬さ		56	59	54	26	65	54	28	57	47	52	56	52	57	57
	熱和膨潤時延伸率S1(%)		118	93	126	191	64	108	153	226	118	105	112	170	69	110
	乾燥時延伸率S2(%)		4	4	3	6	3	5	6	6	4	3	5	8	5	4
	S1/S2		29.5	23.3	42.0	31.8	21.3	21.6	25.5	37.7	26.5	35.0	22.4	21.3	13.8	27.5
	50℃の水で飽和膨潤したときの550nmの光の透過率(%)		72	77	75	74	80	71	68	65	79	71	72	77	52	70
	50℃の水で飽和膨潤したときの貯蔵弾性率E' [GPa]		0.5	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.6	0.7	0.4	0.5	0.4	0.4
評価結果	表面粗さRa (μm)		6.3	5	6.2	7.8	6.7	4.9	5.2	5.1	4.5	5.7	6.3	6.5	5.8	4.1
	残存段差(nm)		25	33	20	28	27	32	22	31	11	18	23	17	24	43
	研磨時間(sec)		147	130	139	157	135	148	138	152	136	133	137	150	184	150
	スクラッチ数(個)		24	20	14	21	24	19	20	28	18	15	22	18	19	33

[0118] [実施例2～15、比較例1～6]

[0119] ポリウレタン組成物の種類を表1または表2に示したような組成に変更し

た以外は、実施例 1 と同様にして成形体または研磨層の特性を評価した。結果を表 1 または下記表 2 に示す。

[0120] [表2]

比較例番号			比較例1	比較例2	比較例3	比較例4	比較例5	比較例6
ポリウレタン組成物	非脂環式熱可塑性ポリウレタン	種類	I	II	I	I	I	I
		ジイソシアネート単位	MDI	MDI	MDI	MDI	MDI	MDI
		質量部	100	100	85	85	80	99
	脂環式熱可塑性ポリウレタン	種類	—	—	IV	V	—	—
		ジイソシアネート単位	—	—	IPDI	CHI	—	—
		質量部	—	—	14	14	—	—
	吸湿性高分子	種類	—	—	PEO-PPO 1,000,000	PEO-PPO 1,000,000	PEO 100,000	—
		質量部	—	—	1	1	20	—
	アクリルニトリル-スチレン共重合体	質量部	—	—	—	—	—	1
成形体	デュロD硬度		83	85	82	84	70	80
	ピッカース硬さ		54	65	56	60	18	52
	飽和膨潤時破断伸度S1(%)		101	10	47	43	230	60
	乾燥時破断伸度S2(%)		7	3	4	4	5	4
	S1/S2		14.4	3.3	11.8	10.8	46.0	15.0
	50℃の水で飽和膨潤したときの550nmの光の透過率(%)		76	75	27	34	60	32
	50℃における貯蔵弾性率[GPa]		0.8	0.9	1.1	1.0	0.09	0.90
評価結果	表面粗さRa(μm)		3.2	3.5	3.8	3.3	3.0	3.3
	残存段差(nm)		36	35	40	37	68	38
	研磨時間(sec)		152	149	178	171	175	150
	スクラッチ数(個)		18	25	32	36	11	20

[0121] 表 1 を参照すれば、本発明に係る実施例 1 ～ 15 で得られた研磨パッドは、何れも、表面粗さ R a が大きく、ドレス性に優れていた。また、残存段差も小さく、平坦化性にも優れていた。また、研磨時間も短く、高い研磨速度が得られた。さらに、スクラッチの発生も少なかった。このように、本発明に係る研磨パッドは、高い研磨速度と、高い平坦化性と、低スクラッチ性と、優れたドレス性とを兼ね備えていた。一方、吸湿性高分子を含まない比較

例 1 及び比較例 2 で得られた研磨パッドは表面粗さが顕著に低かった。また、非脂環式ジイソシアネート単位を含む熱可塑性ポリウレタンの割合が 90 質量%未満である比較例 3 ～比較例 5 で得られた研磨パッドも、表面粗さが顕著に低かった。また、吸湿性高分子を、10 質量%を超えて 20 質量%含む比較例 5 で得られた研磨パッドは残存段差が大きく、平坦化性に劣っていた。また、吸湿性高分子の代わりに、吸湿率 0.08% のアクリルニトリル－スチレン共重合体を 1 質量%含む比較例 6 で得られた研磨パッドも、表面粗さが低く、残存段差も大きくかった。

符号の説明

- [0122] 1 プラテン
2 スラリー供給ノズル
3 キャリア
4 ドレッサー
5 被研磨基板
6 スラリー
10 研磨パッド
20 CMP 装置

請求の範囲

- [請求項1] ポリウレタン組成物の成形体である研磨層を含む研磨パッドであって、
- 前記ポリウレタン組成物は、有機ジイソシアネート単位として非脂環式ジイソシアネート単位を含む熱可塑性ポリウレタン90～99.9質量%と、吸湿率0.1%以上の吸湿性高分子0.1～10質量%とを含有し、
- 前記成形体は、JIS K 7215準拠のタイプDデュロメータで、荷重保持時間5秒間の条件で測定された、75～90のD硬度を有する、ことを特徴とする研磨パッド。
- [請求項2] 前記熱可塑性ポリウレタンは、前記有機ジイソシアネート単位の総量中に、前記非脂環式ジイソシアネート単位である4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネートを90～100モル%含む、請求項1に記載の研磨パッド。
- [請求項3] 前記ポリウレタン組成物は、前記熱可塑性ポリウレタン99～99.9質量%と、前記吸湿性高分子0.1～1質量%とを含有する、請求項1または2に記載の研磨パッド。
- [請求項4] 前記吸湿性高分子は、ポリエチレンオキサイド及びポリエチレンオキサイドープロピレンオキサイドブロック共重合体から選ばれる少なくとも1種を含む請求項1～3の何れか1項に記載の研磨パッド。
- [請求項5] 前記成形体は、50℃の水で飽和膨潤させたときの、飽和膨潤時破断伸度が50～250%である、請求項1～4の何れか1項に記載の研磨パッド。
- [請求項6] 前記成形体は、湿度48RH%、23℃における、乾燥時破断伸度が0.1～10%である、請求項1～5の何れか1項に記載の研磨パッド。
- [請求項7] 前記成形体は、前記飽和膨潤時破断伸度 S_1 と前記乾燥時破断伸度 S_2 との比 S_1/S_2 が20～50である、請求項6に記載の研磨パッド。

ド。

- [請求項8] 前記成形体は、厚さ0.5 mmのシートを50℃の水で飽和膨潤させたときの、波長550 nmのレーザー光透過率が60%以上である、請求項1～7のいずれか1項に記載の研磨パッド。
- [請求項9] 前記成形体は、ビッカース硬さが21以上である、請求項1～8のいずれか1項に記載の研磨パッド。
- [請求項10] 前記成形体は、50℃の水で飽和膨潤させたときの貯蔵弾性率が0.1～1.0 GPaである、請求項1～9のいずれか1項に記載の研磨パッド。
- [請求項11] 前記成形体が無発泡成形体である、請求項1～10のいずれか1項に記載の研磨パッド。